山代二子塚古墳・大庭鶏塚古墳 国史跡指定100周年 記念講演会

出雲国成立と山代・大庭古墳群

～山代二子塚古墳のナゾにせまる～

Web講座
特典

質疑応答コーナー

講演会当日、回答できなかった

会場からのご質問にお答えします！

（回答者：丹羽野　裕）

Q1.

四隅突出型墳丘墓と、
前方後円墳や前方後方墳と
の関係は？

A1.

　四隅突出型墳丘墓は出雲市にも松江市にも造られています。ただ、大きな四隅突出型墳丘墓は出雲地方の東（安来市）と西（出雲市）にあり、松江市域には小型のものしか発見されていません。松江を中心に出雲東部で前方後方墳が造られるのが5世紀後半、四隅突出型墳丘墓が造られたのが2世紀から3世紀です。200年以上の間に、出雲勢力地図は変わったと推測されます。

Q2.

古墳の大きさの変化と仏教伝来の関係は？

A2.

仏教は倭（当時の日本）の伝統的なカミマツリとは異なる思想でした。特に死後の世界観に対して仏教が与えた影響は大きかったと推測されます。お墓の大きさで権力を示すという従来の考え方は、仏教が広まるにつれて次第に薄くなっていきます。古墳が造られなくなる7世紀後半には、都だけでなく地方でも豪族が寺院を建立し始めますので、権力を誇示するモニュメントは墓ではなく、現世の寺院の荘厳さで表示するように変化しました。

Q3.

子持壺が関東地方からも出土した
と聞きましたが、出雲型子持壺が
関東地方にも広がったのでしょうか？

A3.

子持壺自体は、出雲以外の地方にも数は少ないながら存在します。その中で出雲では壺に底のない独特の子持壺が造られました。ですので、関東地方の子持壺を直ちに出雲と結びつけることはできません。一方で下野（今の栃木県）にはよく似た須恵器の大甕が出ているとの報道がありました。このことはこれからの研究課題ですが、栃木県の研究者によれば、地元で古墳以外の村でも出土するものなので、出雲のように特殊な使い方をしているものではない、という意見があるそうです。

Q4.

古墳時代の日本全体の人口や、

出雲国としての人口は

判明するのでしょうか？

A4.

古墳時代の人口は直接知ることはできません。ただ、平安時代前期(10世紀頃)の日本の人口は500～550万人程度と考えられています。出雲には『出雲国風土記』が残っており、奈良時代前半の郷（行政区画の最小単位）の数が分かります。出雲には62の郷が記されていて、郷は50戸からなるとされています。古代史の研究によれば1戸当たりの人口は25人程度と推測されていますので、62郷×50戸×25人とすると、7～8万人が住んでいた計算となります。

Q5.

出雲には地名に大陸渡来と思われる読み方もあります。出雲族は渡来人という考え方はないのでしょうか？

A5.

　出雲に渡来人がやって来たことは間違いありません。ただ、旧石器時代から始まって累々と遺跡は続いていますので、古来より地元に住んでいた人が多かったものと推測できます。

Q6.

以前から山代に住んでおり、子供のころに山に穴がいっぱいあって不思議だったので、親に聞いたら、防空壕だと答えられました。横穴墓だったのでしょうか？

A6.

　現在の内陸工業団地周辺にはたくさんの横穴墓が造られました。当時見つけられたものが「横穴墓」だった可能性はあります。一方で防空壕もあったでしょうし、軍が山代町に射的場を作った時に、的に当たったかどうかを確認するための「観的壕」という穴もあったことが分かっています。確定することは難しいでしょう。

Q7.

出雲は大和に敗れたため、

国を渡すことになったということでは

ありませんか？

A7.

出雲神話の解釈や、弥生時代の大量の青銅器の存在などから、出雲に巨大な勢力があり、大和と争って敗れた、という説は古くからあります。ただ、現在の古代史や考古学の研究では、講演会でもありましたように、出雲とヤマト王権は近しい関係にあったとする考え方が主流となっています。

Q8.

岡田山古墳の鉄刀には「額田部臣」
と記されていますが、出雲臣と
どのような関係でしょうか？

A8.

額田部臣は、氏である額田部から推測すると、大和の額田という豪族に奉仕をする部民だったと考えるのが定説です。一方、臣という姓（かばね）は出雲臣の配下の集団が名乗る姓と考えられています。つまり、出雲地方では国造だった出雲臣と近い関係をもって地域の中での立場を確保しながら、大和の豪族へ様々な奉仕をすることで中央から立場を承認されて利益を得ていたものと考えられます。

Q9.

講演の中で大型前方後円墳の
上竹矢7号墳や井ノ奥4号墳が全く
触れられなかったのはなぜか。
これらも国造と関係があるのでは？

A9.

上竹矢7号墳や井ノ奥4号墳は4～5世紀の古墳です。今回のテーマが6～7世紀だったため、触れませんでした。国造制の成立は6世紀と考えるのが定説ですので、これらの古墳が造られた時期はまだ国造は存在していませんでした。ただし、国造の祖先であった可能性を否定するものではありません。

Q10.

古墳築造当時、鉄器は潤沢に生産、

使用されていたのでしょうか？

A10.

古墳時代には鉄自体は大陸からの輸入品が主体でした。ですが、ヤマト王権を中心に対外交渉が活発に行われ、たくさんの鉄が供給されていたようです。古墳にはたくさんの鉄の武器・武具や農耕具が副葬されているので、鉄の製品が潤沢とまではいかないまでも生産されていたことは確かです。

Q11.

「出雲」を「しゅっとう」と発音しますが、

その背景を教えてください。

A11.

古代の「出雲郡」―現在の出雲市北部と東部（斐川町）あたり―が中世の南北朝期（14世紀後半頃）に「出東（しゅっとう）郡」になりました。江戸時代前半（17世紀頃）に郡の範囲が改められ、「しゅっとうぐん」が「出雲郡」と書き表されるようになったようです。そのため出雲が「しゅっとう」と読まれるようになりました。

Q12.

小学生や若い年代の人に
古墳に興味を持ってもらうには
どうしたらよいでしょうか？

A12.

　松江市や島根県では、小中学校に出向いてお話をしたり、発掘体験・写生大会などの事業をしています。しかしながら、子どもや若い世代に興味を持っていただくにはどういうことが効果的か、試行錯誤している状況です。市民の方からも、アイデアやご意見をお寄せいただければ幸いです。

たくさんのご質問

ありがとうございました！